

架け橋期の学びをつなぐ推進モデル地区実践研究

モデル地区3市の令和5年度の実践

義務教育課（ふくしま幼児教育研修センター）

「架け橋期の学びをつなぐ推進モデル地区実践研究」は、幼児教育の質の向上と幼小連携の充実を目的に、福島県教育庁義務教育課「ふくしま幼児教育研修センターの事業」として、令和5年度から3年間の取組みとしてスタートしました。



本取組のモデル地区は、「南相馬市」、「田村市」、「喜多方市」です。令和5年度は、その1年目で、それまでの各市での取組を基盤としながら取り組んでいただいております。

3年間継続した取組の中の1年目について、どのように試行錯誤しながら実施してきたかを、3市それぞれの取組の一部を抜粋して御紹介します。歩み方はそれぞれですが、参加者の範囲や研修の内容、公開保育の持ち方、協議内容等、各市とも、実態に合わせながら、さらなる高まりを目指して取り組んでいることがうかがえる内容となっています。

御覧になった県内各地の保育者や行政機関関係の皆様には、今後の取組の一助としていただき、本県幼児教育のさらなる質の向上や幼小連携の充実につなげていただけると幸いです。



【用語について】

モデル地区	福島県教育庁義務教育課の事業の中で、「架け橋期の学びをつなぐ推進モデル地区実践研究」地区を3市指定している。3市とは、浜通りは南相馬市、中通りは田村市、会津地方は喜多方市である。
乳児、幼児等	0歳児を乳児、0～2歳児を未満児、1歳～就学前を幼児、小学生を児童として記載している。
幼小連携	連携する施設等は、公私の別なく、施設種を問わないものとしている。例えば、「幼小連携」と表記していても、保育所や認定こども園も含んでいる。
義務教育課	福島県教育庁義務教育課のこと。ふくしま幼児教育研修センターは、義務教育課に所属している。
教育事務所	福島県教育庁の各地の出先機関のこと。
10の姿	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿のこと。

令和5年度 南相馬市における取組

I はじめに

本市は、公立幼稚園3園、公立保育所3園、公立認定こども園1園、私立幼稚園3園、私立保育所4園、私立認定こども園1園、計15があり、小学校は10校ある。

昨年までの取組としては、市内の各園と各小学校間で幼小連携の共通理解を図る目的で令和3年度から合同会議を開催してきた。しかし、知識としての理解は進みつつも、互いの教育文化や方法の違いなどにより、なかなか効果的な実践にまではつながらなかった。

今年度は、まず市全体の幼児教育の質の向上を計画的に進めながら、幼小連携の取組を推進していくために、市の教育委員会とこども育成課が協働し、研修会や公開保育を開催することとした。

II 幼児教育の質の向上に向けて

【保育所における0・1・2歳児の 公開保育の開催】

① 8/8 (火)

原町あずま保育園

参加者 28名

午前 保育参観

午後 グループ討議

テーマ 0・1・2歳児の子供達の遊び
と保育者のかかわり

② 10/11 (水)

原町あずま保育園

参加者 36名

午前 保育参観

午後 グループ討議

テーマ 0・1・2歳児の子供達の遊び
と保育者のかかわり



- 市内の保育園では、初めての0・1・2歳児の公開保育を実施した。1回目の参加者は市内の公立園、2回目は市内の全園を対象に実施した。3回目は、浜通りの各園・小学校等に対象を広げていった。
- 保育者は、これまで指導計画立案に込めた願いと実際の保育における乳幼児の思いに寄り添った関わりとの違いやずれに悩みを感じていた。こうした課題の改善策として、これまで、発達段階に応じた子供の見取りを担当保育者間での話し合いにより共有したり、連携を意識した保育の展開のための園内研修を実施したりしてきた。そのような中、実施した公開保育では、参観した保育者から得た協議内容や情報交換での内容をさらに保育の改善に生かすよう、園内での話し合いや振り返りを行っていった。
- 公開保育を通し、保育者が乳幼児に何をさせようとするのかではなく、一人一人の乳幼児がしたいことに一緒に向き合う保育者の姿が見られるようになってきた。

③ 11/1 (水)

原町あずま保育園

参加者 48名

午前 保育参観

午後 グループ討議

テーマ 0・1・2歳児の遊びと環境
の工夫について



- これまでの公開保育時と同様に、公開保育の午後には、保育参観を基に、課題でもある乳幼児期の子供達の興味やその見取り方の工夫について話し合う時間を設けた。様々な取組や考えを交流し合うことで、保育者それぞれの考え方を広げることができ、その後の保育にも生かすことができた。これまで、0・1・2歳児に限定して公開保育を実施してきたが、普段なかなか参観する機会がなかった発達段階であったので、そこに焦点化して参観及び協議できたことは保育の質の向上にとって非常に有効であった。

【幼稚園における3・4・5歳児の
公開保育の開催】

① 9/19(火)

大甕幼稚園

参加者 27名

午前 保育参観

午後 グループ討議

テーマ 3・4・5歳児の遊びと環境
の工夫について

① 12/6 (水)

大甕幼稚園

参加者 43名

午前 保育参観

午後 グループ討議

テーマ 3・4・5歳児の遊びと環境
の工夫について

- 幼稚園では、3・4・5歳児公開保育を実施した。保育所の時と同様に、1回目の参加者は市内の公立園を対象とし、2回目は市内の全園を対象に実施した。3回目は、浜通りの各園・小学校等に対象を広げて行った。
- 園庭が広いので様々な遊びが展開しやすい環境ではある。しかし、乳幼児の興味・関心も次々と変わりやすく、様々な場所で遊んでいるため、担任も一人一人の遊びを把握しにくいという課題があった。
- 課題の改善策として、遊びや発達の実態を担任だけではなく園の職員全体で捉え、共有しながら幼児の興味・関心に合わせた環境を構成していくよう心がけてきた。特に、季節に応じた自然物に対し個々の気付きを基に触れられるような仕掛けを工夫することで、幼児が自ら遊びを作り出したり、変化させたりするようになってきた。

③ 1/31 (水)
大甕幼稚園
参加者 73名
午前 保育参観
午後 グループ討議
テーマ 3・4・5歳児の遊びが豊かになる環境づくり



- 公開保育後のグループ討議では、担当する年齢別に班を構成し、参観での気づきを基に日々の保育における悩みや工夫していることなどを話し合い、目の前の幼児の実態を基にした環境の構成の大切さを再認識することができた。
- これまで各回の公開保育やグループ討議において、ふくしま幼児教育研修センター指導主事から、保育者間の連携が保育に生きていたことや園と園が情報交換しながら保育を充実させていくことの大切さ、子供達の年齢に合わせた保育展開や援助の工夫について、指導・助言があった

【研修会の開催】
1/26 (金) 南相馬市保育者研修
参加者 80名
講師
大阪総合保育大学大学院
阿部 和子 特任教授
演題
「0歳～3歳の子供の豊かな育ちのために今すべきこと—この時期にふさわしい体験の視点から—」

- 3歳以降の遊びや育ちを豊かにしたいという市行政や保育者達の思いから、講師を招聘し、研修会を開催した。
- 講演を通し、幼児期の早い段階での保育を充実させることが3歳以降の遊びや育ちを豊かにすることについて理解を深める機会となった。また、本研修は、市内の保育者の資質向上を目指して実施したが、広く浜通りの各園にも案内したことにより、広域の保育者が互いに学びを深め合う機会ともなった。

Ⅲ 幼小連携の充実に向けて

6/15 (木)
第1回幼小連携接続推進研修会
参加者 幼児教育関係者 19名
小学校関係者 12名
内容
① 令和5年度の取組を確認する
② 架け橋プログラムへの理解を深める

- 今年度は、参加者を5歳児と1年生の担任とし、同じメンバーでの話し合いを重ねることで理解を深め、実践につなげていくことができるようにした。
- 第1回目の研修では、今年度の取組について確認し、架け橋プログラムへの理解を深める1歩目として、幼児教育の基本や幼児期の発達の特徴、環境の構成や援助の工夫等について、ふくしま幼児教育研修センター指導主事による研修を実施した。後半は、地区別に分かれ情報交換し、今後実施可能な交流や連携について話し合った。

8/17(木)

第2回幼小連携・接続研修会

参加者 幼児教育関係者 19名

小学校関係者 12名

内容

- ① スタートカリキュラムとアプローチカリキュラムの現状について
- ② 連携上の悩みや課題、実践の共有

○ 第2回目の研修会では、各園のアプローチカリキュラムと各小学校のスタートカリキュラムを持ち寄り、現状について共有するとともに、連携をする中で困っていることや実際に行っている連携・接続の取組について地区別に協議を行った。

1/18(木)

第3回幼小連携・接続研修会

内容

- ① 行事の共有
- ② 今後の取組

○ 第3回目の研修会では、有効な交流・連携につなげていくため、各園・小学校の行事に視点を当てて話し合った。行事を通して話し合うことにより、交流の工夫や育ちの共有につながったり、幼小連携の必要性について考えたりすることができた。参加者が今後の取組について意欲的に考えるようになってきていた。



IV おわりに

推進モデル地区の取組として、保育園・幼稚園の公開保育を3回ずつ行い、私立園の保育者も参加し、話し合いを継続的に行えたことは、市全体の幼児教育を考えていく上で良いきっかけを作ることができた。

こうした話し合いの中で、0・1・2 歳児の発達の積み上げも架け橋期の学びをつなげていく上で重要であることや一人一人の育ちを保育者が職員同士で話し合いながら多角的に見ていくこと、発達を促す環境づくりをする中でPDCA サイクルを取り入れ振り返りをしていくことなどの重要性を共通理解することができた。

また、幼小連携についての研修では、幼小双方の考え方の相違点や共通点について知るところから始まったが、協議を重ねることで取組の必要性が明確になった。その中でも、「架け橋期」という言葉の持つ意味について、幼児教育側と小学校側が共に考え、話し合い、一緒に取り組んでいくことに意味があり、重要であることの確認ができたことが成果の一つでもある。

今後は、今年度に引き続き公開保育を行いながら公立園、私立園共に保育の質の向上に取り組んでいくとともに、小学校と幼児教育のさらなる相互理解を目指し、互いの育てていくべき子どもの育ちを考え架け橋期のカリキュラムの作成に取り組んでいきたい。

令和5年度 田村市における取組

I はじめに

本市には、公立の保育所が2園、幼稚園が3園、保育所と幼稚園が同一施設内にある認定こども園が2園ある。保育所は0～3歳児、幼稚園は4・5歳児、こども園は0～5歳児が在園している。他に、私立保育園が1園、私立認定こども園が1園あり、主な幼児教育施設は計9園で、公立小学校が7校ある。

昨年度まで本市では、中学校区ごとに保幼小中一貫教育を推進してきており、より一層連携の強化を図るため「保幼小連携推進委員会」を設置し、年2回の幼児教育を中心とした研修会を行ってきた。しかし、交流や研修会止まりで効果的な幼小接続とまでは至らずにいた。そこで、今年度から、幼児教育の質の向上や幼小連携の充実を推進すべく、幼児教育施設所管課のこども未来課と連携しながら、市教育委員会主催での合同研修会や公開保育を実施することとした。

3年計画の1年次である本年度、「幼児教育の質の向上」においては、幼児教育の基本となる遊びを通した学びを視点に0歳児からの育ちの連続性を再確認しながら、小学校教育への効果的なつなげ方を探ることとした。また、「幼小連携の充実」においては、架け橋期のカリキュラム作成を見据え、相互理解を進めるため保育参観を通した協議や情報交換の機会を増やすこととした。

II 幼児教育の質の向上に向けて

【未満児保育の充実をめざして】 ※0歳児～3歳児

この数年、0歳児からの遊びを見直すため、市内各園では、園内研修において環境の構成の在り方について話し合いを続けてきた。これまでの未満児保育では「自分でできるようになること」を重視しがちであったが、令和以降その保育を見直し、一人一人の「やってみたい」につながりそうな環境の構成や援助について検討してきた。今年度は公開保育を通して、各園での取組を共有し合い、各園での保育実践につなげてきた。以下、本年度に2回実施した未満児保育の公開について紹介する。

7/21（金）※市内公開
公開園 滝根保育所
テーマ 0～3歳児の遊びを支える
保育環境の工夫
参加者 市内9園から32名
午前 保育参観
午後 グループ協議



午前中の保育参観では、それぞれの幼児が保育室や園庭、テラス等、好きな場所で生き生きと遊ぶ姿が見られ、保育者も連携しながら個々の遊びを支援した。

午後の研修会では、五感を生かして遊べるように発達段階に応じた素材や環境の構成について話し合った。ものだけでなく人も環境であること、環境を工夫することで幼児の活動が広がること、保育者の見取りが次の保育につながることを再確認した。

9/1 (金) ※県中地区公開
公開園 常葉保育所
参加者 48名
テーマ 0・1・2歳児の遊びが豊かになる環境づくり
午前 保育参観
午後 グループ協議

発達段階に応じた砂遊びや水遊び等の外遊びの様子を中心に保育を公開した。一人一人が夢中になって遊び、心と体を使って取り組みたいことを楽しんでいる姿から個々の満足感が感じられた。

午後の協議会では「未満児の保育」について意見交換するとともに、日々の保育における悩み等についても話し合った。

公開は保育改善の途中段階、進化の過程であり今後も各園の研究を通して保育の質を高め改善していくことの大切さを確認する公開保育となった。

【保幼接続交流～プレ幼稚園～の公開】

本市の公立園は3歳児までが保育園、4歳児から幼稚園に通うようになる。そこでその段差に着目し、環境や雰囲気になれるための保幼交流として「プレ幼稚園」を実施している。

11/8 (水) ※中通り地区公開
公開園 常葉幼稚園 (3~4歳児)
※常葉保育所と常葉幼稚園の交流
テーマ 保育所と幼稚園の学びをつなぐプレ幼稚園の実施
参加者 71名
午前 保育参観
午後 グループ協議

保育所の3歳児を乗せたバスが幼稚園に到着。はじめは固定遊具で遊ぶ姿が多かったが、それぞれの気付きや興味関心から自分の取り組みたい遊びを見つけて4・5歳児の遊びに自然と溶け込んでいった。

接続の課題は幼小間のみでなく、各年齢や園と園の間にもある。それをどのように捉え、円滑な接続にしていくかが大切であることを確認した。

<小学校内に設置されている幼稚園の公開>

1/24 (水) ※市内公開
公開園 滝根幼稚園 (4~5歳児)
テーマ 園児の遊びの見取り
参加者 園・小中学校 26名
午前 公開保育
午後 グループ協議、伝達講習



園児の遊びの見取りと保育者の関わりについて協議し、伝達講習では幼児教育の最新の動向について学んだ。

今年度は「0・1・2歳児の発達と遊び」「3歳児及び4歳児の発達と遊び」について協議してきた。それを踏まえ、今回は、4・5歳の遊びに視点を当て、遊びの様子から見取ったことを次の保育の環境構成や援助等にどのように生かしていくかについて検討した。

Ⅲ 幼小連携の充実に向けて

4/27 (木)

市幼稚園教諭等・保幼小連携推進委員会合同研修会

内 容 ・ 架け橋期の学びをつなぐモデル地区実践研究事業の説明
・ 研修「幼児期の学びをその先の教育に生かす」

参加者 園小中から 32 名



ふくしま幼児教育研修センターより指定を受けた「架け橋期の学びをつなぐ推進モデル地区実践研究」について共通理解を図るために、市内説明会を行った。

また、幼児教育をその先の教育においても効果的に生かしつなげていくために、幼児教育についての理解を深めるため研修を行い、幼児期おける「遊び」の重要性と保・幼・小・中の連携の必要性について確認した。

10/16 (月)

市幼稚園教諭等・保幼小連携推進委員会合同研修会

内 容 ・ 幼児期教育と小学校教育の接続の充実のための取組についての中学校区ごとの話し合い

参加者 市内園小中学校から 39 名



中学校区ごとに保・幼・小・中の連携を推進するために、以下の内容について協議した。

- ・ 今年度における幼児教育に関する研修や公開保育等の取組の共有及び経過報告
- ・ 現在の保幼小中の連携に関する取組状況の確認
- ・ 次年度の保幼小中連携に向けて目指したい子供像について

中学校区ごとに話し合うことで、今まで連携が進んでいなかった私立保育園、認定こども園とも交流の計画を立てることができた。

1/25 (木)

保幼小連携推進委員会・市幼小連携・小中一貫教育推進会議

内 容 架け橋期のカリキュラム作成に関する研修

参加者 市内園小中学校から 32 名

保幼小連携推進委員会では、今年度の地区の幼児教育について振り返り、次年度の本市としての取組の方向性を確認した。

次年度から着手する架け橋期のカリキュラム作成に向けた組織の確認と、推進計画について話し合った。

【入学1か月前の年長児の姿】

1か月後の小学校入学を見据え、年長児の園での遊びの様子を共有するため、市内各園で年長児の遊びの様子を同時公開した。小学校のみではなく、中学校の先生方も参観対象とした。

3/5 (火)

◆市内公開保育（市内幼稚園・こども園）※6園公開（5歳児）
参観者 小・中学校 11校 40名

◆保幼小連携推進委員会
参加者 13名
内容 次年度の組織確認
次年度の推進計画



3/27 (水)

◆保幼小連絡会
参加者 年長児担任
新1年担任

午前中は市内各園の5歳児の遊びの様子を公開し、小中学校の教員が自分の学区の園を参観した。10の姿の視点で捉え園と共有する機会となった。午後は、次年度の組織や推進計画について確認した。また、幼児期における遊びの重要性とともに各園の指導要録も含め小学校との共有すべきことについて、目的や方法、内容等について再確認した。

新1年担任予定者が幼児の実態を踏まえて新年度をスタートできるように、今年度の年長児担任から、実際の遊びをもとに10の姿から見た幼児の育ちや、今年度の取組、出来事等を小学校教員に伝え幼小での情報の共有化を図った。また入学後の連携・協力等の重要性について確認した。

IV おわりに

本実践研究の指定を受け1年目が終わった。今年度は市内の公立園だけでなく、私立の保育園、認定こども園とも連携し、互いに保育を見合い、取組を共有し合いながら一緒に研修を進めることができたことが大きな成果であった。また、この数年各園が進めてきた保育改善について、保育参観を通して共有し合い、0歳児からの遊びを通じた学びがその後の育ちにどのようなようになっていくのかを実際の保育場面を通して確認することもできた。今後も園同士の横のつながりを深めながら、さらに市内の小中学校との縦のつながり方を模索し、効果的な接続の在り方について研究を進めていきたいと考えている。

そこで、次年度は、「保幼小連携推進委員」を中心に、市内の各園・小学校を1年間かけて相互参観しながら、架け橋期のカリキュラムについて話し合っていく予定である。各園での遊びの様子とともに、小学校入学後の学校生活や交流している様子を共有し合いながら、様々な場面における本市の子供達の実際の育ちや学びの姿を通して「架け橋期の教育の在り方」について検討していく。その際、10の姿を手掛かりに話し合いを進め、互いの思いを尊重するとともに、共通の思いを持つことも大切にしたい。そして、目の前の子供達に寄り添う気持ちを大事にしながら、子供達の将来に向けて、目指す子ども像を一緒に見つけていきたい。

今後も、計画的・継続的かつ効果的な研修により、幼児期の学びを小学校以降の教育に生かしていくことができるよう保幼小中での共通理解を深めながら取組状況を発信し、地域や保護者も含め本市全体で、子どもの学びを支えることができる田村市でありたい。

令和5年度 喜多方市における取組

I はじめに

本市には、公立こども園10園、私立幼稚園3園、私立保育所10園、小学校17校がある。

昨年度まで、本市こども課で所管している各園では、園内研修や公開保育に取り組むことで、保育者等の資質向上を図り、幼児教育の充実を目指してきた。また、学校教育課の事業として年2回の「幼児教育・小学校教育担当者連携研修会」を開催し、幼小連携の推進を図ってきた。

今年度、県教育委員会の指定を受け、こども課と学校教育課が、各課の取組を整理統合し、つながりを持たせる連携を行った。また、私立の幼児教育施設に対して、実践研究の参加を促すとともに、小学校に対して、架け橋期の子供達の学びの重要性等を伝え、幼小連携に関する意識の高揚を図ってきた。

II 幼児教育の質の向上に向けて

9/22(金)

「教育保育業務情報交換会」

参加者 公立こども園から9名
私立保育所から10名
担当課職員4名

内容・実践研究事業の共通理解
・園内研修や幼小連携に関する協議

11/9(木)

「第三こども園園内研修」

(0歳～5歳児が通う公立幼保連携型認定こども園)

参加者 公立こども園から14名
私立保育所から4名

テーマ・子供主体の保育
・遊びの姿の読み取り方



初開催となる情報交換会には、公立こども園と私立保育所から多くの参加があった。

幼小連携の現状などについて情報交換を行い小学校との連携に課題があり、幼小の交流会も実施が難しいことが明らかになった。

市教育委員会主催の校長会議や幼小連携研修会等では、幼小連携の重要性について、すべての教員が理解できるよう、さらに啓発していくことを確認した。また、県教育委員会の事業では、公立こども園が共同で実施してきた保育者の資質向上研修をベースに公開保育を実施することとし、私立園にも参加していただくことでさらに市全体の幼児教育の質の向上を図っていくことについて共通理解を図ることができた。

子供達は、前日まで行っていたままごととサッカーを題材に継続的に遊ぶ姿が見られた。特に、ままごとでは、柿の実やどんぐり、松ぼっくり等の自然物や紙粘土、チョーク等の素材、おろし器・麵棒・ざる等の用具を準備し、子供達が主体的に思いや願いをふくらませながら遊びを発展させていくための環境構成を考えている保育者の工夫が見られた。

事後の協議会では、子供の遊びの姿の読み取り方について様々な視点から話し合い、子供主体の保育の在り方に関して参加者全員で理解を深めることができた。

11/29 (水)

「堂島こども園公開保育」

(0歳～5歳児が通う公立幼保連携型認定こども園)

参加者 公立こども園から14名、
私立保育所から3名
小学校から2名

テーマ・子供主体の遊び

・遊びを支える保育者の関わり
の在り方



3歳以上児は、廃材や自然物を使った遊びやルールのある遊び、2歳児は絵本からイメージを広げたままごと遊び、0・1歳児は新聞等の素材を用いた見立て遊びなど、目の前の子供の遊びの実態や発達段階に応じた遊びの展開が見られた。

協議では、2つのテーマに沿って話し合った。子供達が自分の思いを実現できるように、常に環境設定を見直していくことの大切さや、保育者が遊びを誘導しすぎないように、言葉かけの頻度や場面について意識しながら働きかけていくことの大切さについて意見が出された。小学校の参加者からは、0歳から5歳までの遊びの発展やそれを支える保育者の援助について感想が述べられ、幼児期の子供の遊びの特性について小学校として理解を深めていきたいとの話があり、小学校側の幼児教育への関心の高まりが見られた。

Ⅲ 幼小連携の充実に向けて

8/2 (水)

「第1回幼児・小学校教育担当者
連携研修会」

参加者 幼児教育施設から各1名
小学校から各1名

テーマ・「幼児期の終わりまでに育
ってほしい姿」の理解
・幼児の学びの読み取り
(混合グループでの協議)



ふくしま幼児教育研修センター指導主事から「幼児期の終わりまでに育てほしい姿」(以下、「10の姿」)について小学校学習指導要領や幼稚園教育要領をもとに指導をいただいた。

その後、幼稚園における幼児の遊びの様子についてビデオ視聴し、幼児教育施設と小学校の参加者が混合のグループを作り、以下の2つの視点で協議を行った。

- ① 遊びの中にある幼児の学びについて
- ② 幼児期の遊びが小学校の学びにどうつながるか

保育者にとっては、子供の姿をもとに多様な見取りや読み取りにふれることで、個々の視野を広げる機会となった。また、小学校の教員にとっては、遊びを通した幼児の学びについて理解を深める機会となった。



11/14 (火)

「第2回幼児・小学校教育担当者
連携研修会」

参加者 幼児教育施設から各1名
小学校から各1名

テーマ・「架け橋期のカリキュラム」の理解
・架け橋期のカリキュラム
のデザイン演習



会津教育事務所指導主事から「架け橋期のカリキュラム」について「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き（文部科学省）」等をもとに指導をいただいた。

その後、小学校区を基盤としたグループで協議・演習を行った。協議では、各小学校区における架け橋期の子供達の実態を共有し、幼児期の遊びを小学校1年生の学びにつなげるためのカリキュラムをデザイン（作成）する演習を行った。

研修会を通して、参加者の架け橋期のカリキュラムについて理解が深まるとともに、実践研究の目的の一つでもある「喜多方市版 架け橋期のカリキュラム」の策定に向けて、認識の共有を図ることができた。



12/19 (火)

「第二こども園・小学校連携保育
参観協議会」（第一中学区小学校
3校連携事業）

（2歳～5歳児が通う公立幼保連
携型認定こども園）

参加者 公立こども園より16名、
私立保育園より6名、
小学校より4名参加

テーマ・幼小連携に求められるもの
・架け橋期の学びをつなぐ
ために必要なこと
・小学校から見た幼小連携に
ついて



5歳児は、登園後すぐに前日からのつながりで「おばけやしきごっこ」を楽しんだ。その後の活動では、段ボールを組み合わせてクリスマスツリーつくる活動を行った。保育者は「どうすればツリーになるか」「倒れないようにするにはどうしたらよいか」について子供に問いかけ、子供の思いを引き出し、寄り添いながら、自発的な活動を促していた。

義務教育課指導主事から小学校学習指導要領や1年生の生活科の教科書などの記載をもとに「10の姿」の活用について説明があった。協議会では、午前中の保育に関して「10の姿」を手掛かりに保育者と小学校教員で子供の遊びと学びについて意見を出し合った。

研修会を通して、幼小連携において子供の姿を共有する際に「10の姿」が役に立つことを理解するとともに、「10の姿」について小学校の教員の理解を深めていくことの大切さを再確認した。

IV おわりに

本年度の成果としては次のことがあげられる。

- (1) 実践を進める中で、公立こども園で実施してきた「資質向上研修」をベースに園同士がつながりながら研修をしていくことの重要性を再確認できた。「資質向上研修」は経験年数の浅い保育者等が学ぶ機会であると同時に、保育者の資質向上の機会となっている。
- (2) 実践研究の一環として実施した2度の公開保育では、私立の幼児教育施設の保育者や小学校教員の参加があり、架け橋期の子供達に関わる者の全体的な意識の高まりが見られた。特に小学校に関しては校長会をはじめ、小学校教員対象の各種会合、研修会において伝えてきたことで小学校教員の幼小連携に関する理解が深まってきた。
- (3) 認定こども園、保育所等を所管する市の保健福祉部こども課、小学校を所管する市の学校教育課、幼児教育施設代表者が連携しながら実践研究を進めてきた。また、公開保育や幼小連携研修会等の計画・準備、実施、振り返りについて協働して取り組むことができたことにより、架け橋プログラムの基礎を築くことができた。

次年度については、次のことに特に注力していきたいと考える。

- (1) 幼児教育の質の向上に関して
 - ① 公立こども園の資質向上研修を引き続き実施する。公開保育も全ての園で行い、私立の幼児教育施設にも積極的な参加を促すことで、市全体の幼児教育の質の向上を図っていく。
 - ② 公立こども園と私立の幼児教育施設の交流（保育者同士の情報交換、園児の交流、共同研修など）を行い、園や保育者同士がつながり、学び合う機会を設け、市全体の幼児教育の質の向上を図っていく。
- (2) 幼小連携の推進に関して
 - ① 「喜多方市版 架け橋期のカリキュラム」の策定に向け、学校教育課が主体となって実施する幼小連携研修会において作成演習等を行っていく。また、令和5年度末に立ち上げた「喜多方市架け橋期の学びをつなぐ推進モデル地区実践研修推進委員会」に架け橋期のカリキュラム策定に向けた「開発会議」の機能も持たせ、策定に向けた取組を推進していく。
 - ② 各小学校区を基盤として実施している幼小連携が、子供同士の交流や保育者・小学校教員の研修会等での交流にとどまらず、幼小の円滑な接続を見通した教育課程等の編成・実施の段階に高められるよう、市の保健福祉部こども課と学校教育課が協働しながら運営し、幼児教育施設と小学校の連携のコーディネートを行っていく。